

(2) 景観重要道路

立川市景観計画では、地域の景観を構成する重要な公共施設等を指定し、整備に関する事項を定めています。

立川市の道路管理者が管理する施設として、以下の3つが指定されています。

① 北口駅前大通り線

立川駅北口駅前広場より延びる幹線道路で、沿道には多くの商業ビルが建ち並び、にぎわいと活気のある道路景観が形成されています。



写真：北口駅前大通り線の街路樹
(1級21号線)

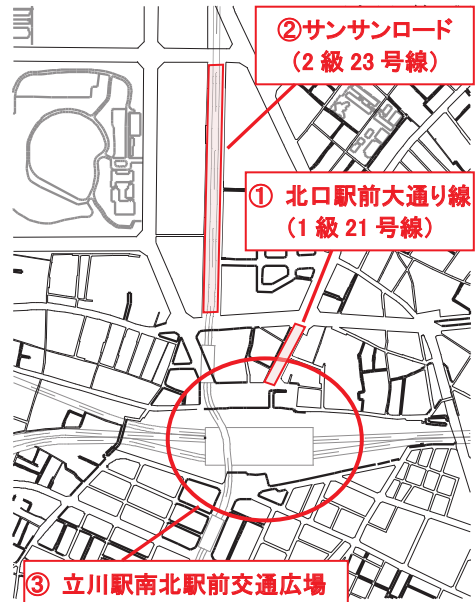


図1-3：本市の景観重要道路

② サンサンロード

基地跡地の市街地開発により整備された、広幅員の歩行者・自転車専用道路で、中央には多摩都市モノレールが通り、沿道には商業ビルなどが建ち並び、にぎわいと活気のある道路景観が形成されています。



写真：サンサンロードの並木
(2級23号線)

③ 立川駅南北駅前交通広場（デッキ含む）

立川駅の南北駅前交通広場は、ペDESTリアンデッキを含め、来訪者を迎えるための重要なエントランス空間となっています。



写真：立川駅北口デッキの植栽



写真：立川駅南口の植栽

3 特徴的な街路樹

(1) シンボルとなる並木、風格ある景観の形成

① 都市の景観軸の形成

駅前を通る中央分離帯に植栽されたケヤキ並木は、ケヤキ本来の姿が風格を持った印象的な景観を形成しています。



写真：北口駅前大通り線のケヤキ並木
(1級21号線)

市街地に近い幹線道路では、ケヤキの樹冠が重なり緑の帯状となり、視線を誘導する連続した緑の景観が印象的です。

大きく成長し樹冠が重なっていますが、計画的にせん定することで、連続した並木の景観を創出しています。



写真：広幅員道路のケヤキ並木
(中129号線)

立川駅北口から延伸するモノレール沿いには、幅が広い歩道空間に、樹形が整ったケヤキが並木状に植栽され、都市空間に緑の軸線を創出しています。

ケヤキの並木に加え、モノレール高架下には季節の移ろいを感じさせる多彩な植物を植え、駅からつながる都市のシンボル性を持った景観を形成しています。



写真：モノレールと平行するケヤキ並木
(2級23号線)

② 地域の花の名所

市街地に近い幹線道路では、道路空間を覆うほどのサクラの並木が形成され緑のトンネルを形成しています。

広い道路の空間の中でサクラの特徴的な樹形が保たれていますが、一方で、個々の樹木では、老齢化が進んでいます。

都市公園や、体育館、野球場に隣接した道路では、道路空間を覆うほどのサクラの並木が地域の桜の名所となっています。また、歩道は改修済みで歩行空間には根上がりなども見られません。

個々のサクラは老齢化していますが、植栽基盤が広く確保され、樹勢は良い状態です。また、落枝などの後も見られ、太い枝にはせん定の跡も見られますが、丁寧な管理が施されています。



写真：市街地幹線道路のサクラ並木
(中 128 号線)



写真：広場に隣接するサクラ並木
(中 1 号線)

③ 河川の緑と一体的となった景観の形成

残堀川沿いの趣のあるサクラ並木では、河川と調和した景観を形成しています。

一方で、サクラの根元は、根上がりが見られ、歩道幅が狭く安全に歩行できるような形態ではないため、植栽基盤や歩行空間の改良が必要と思われます。



写真：残堀川右岸のサクラ並木
(西 73 号線)

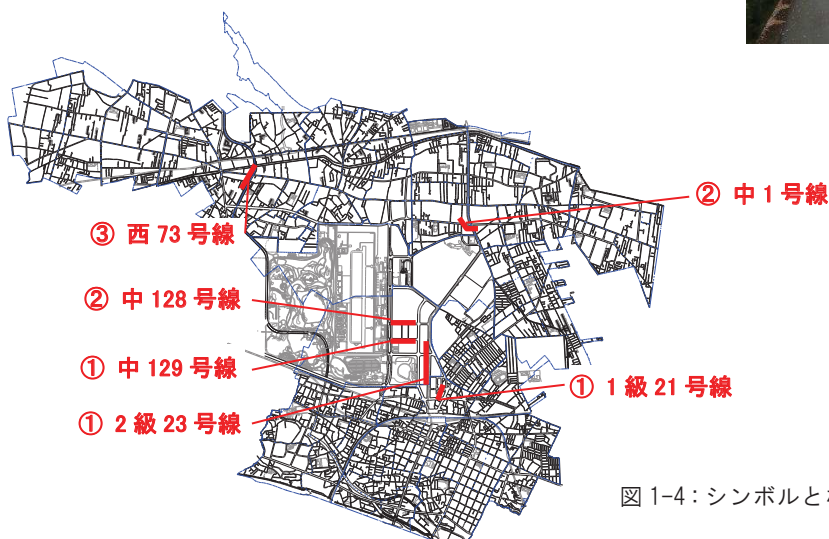


図 1-4：シンボルとなる並木、風格ある景観の形成する路線

(2) 街並みとの調和

① 都市的な街並みとの調和

「ファーレ立川」内の歩行者専用道路では、都市的な空間の中に等間隔で列植されたハナミズキが、街並みとあった印象的な景観を形成しています。

アートで飾られた空間では、街路空間に潤い感を与えるとともに、芸術作品の展示を引き立てる植栽となっています。



写真：「ファーレ立川」内のハナミズキ
(中 133 号線)

② 広大な緑地との調和

広大な緑地に面してゆったりとした道路では、隣接する緑地との調和が図られた並木が形成されています。電線が地中化されたので空間に余裕があり、樹木も大きく育っています。



写真：国営昭和記念公園の緑と一体的な
カツラの並木 (1 級 19 号線)

③ 農業と住宅の景観との調和

農地が広がる景観の中にある直線的な道路では、リズムカルに街路樹が配植されています。広がりを持った景色の中で整った樹形と均等に配置された並木が、印象的な景観を形成しています。



写真：すずかけ通りのプラタナス並木
(1 級 10 号線)

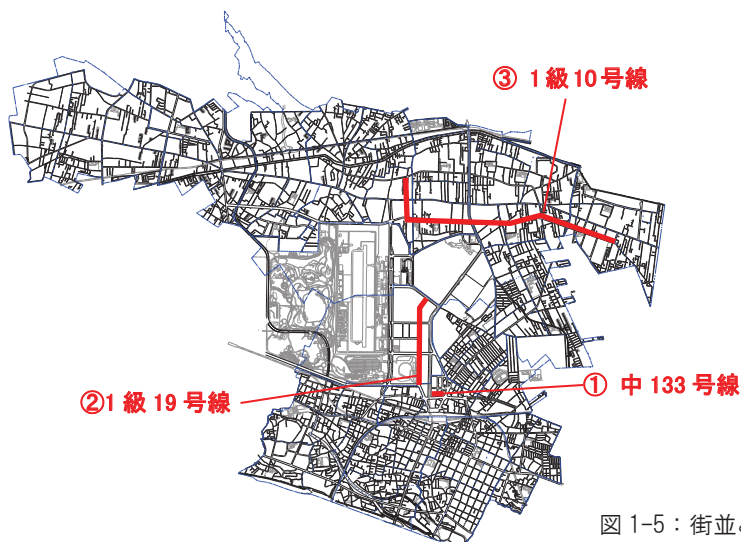


図 1-5：街並みとの調和のある路線

(3) 街並みへの潤い

① 人工的な住宅地への潤い

イチヨウの樹形の特徴が表れた住宅地内の道路では、建物が並ぶ住宅地の印象を和らげ、印象的な住環境の景観を形成しています。

また、道路沿いに連続した街路樹は、隣接する民地に対し、道路の騒音を和らげたり、火災時の延焼を抑制したりする効果があります。



写真：住宅地内のイチヨウ並木（2級2号線）

建物が近接する住宅街の中の道路では、建物に寄り添うような緑の景観が作られています。

エンジュの緑量を保ちつつ、せん定により枝下の空間を確保しています。



写真：住宅地内のエンジュ並木（東12号線）

② 四季の変化による街並みへの潤い

モミジバフウとトウカエデが混植された街路樹が、隣接する民地の緑とともに、街並みに潤いを与えています。紅葉の美しい樹種が、秋には季節感を感じさせ、豊かな歩行空間を形成しています。



写真：落葉広葉樹の混植の並木（2級22号線）

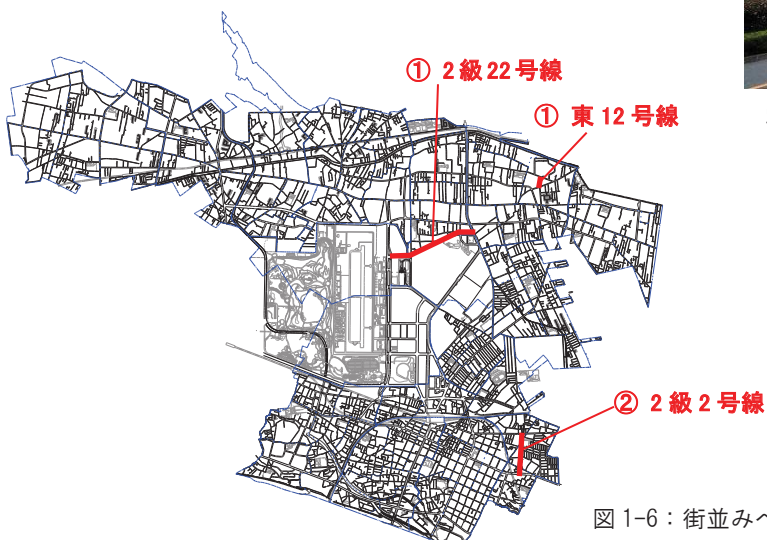


図1-6：街並みへの潤いのある路線

第2節 維持管理の状況

1 維持管理業務

(1) 日常の維持管理

本市では、街路樹の維持管理にあたっては、業務委託を発注し、以下の管理頻度で維持管理（せん定、ヤゴ取り、低木等の刈り込み、つる除去）を実施しています。

○せん定：ケヤキ（10月～2月）、サクラ（2月）は2年に1回 ※北口大通りは毎年

：その他街路樹（8月～10月）は1年に1回

○刈込：低木の刈り込み（6月～8月）は1年に1回

○せん定にあわせ清掃、除草などを実施

その他、市民からの要望など緊急性を要するものは、市職員が維持管理作業を実施しています。

(2) 街路樹の災害等への対応

市職員によるパトロールにより、危険木などが確認された場合は、市職員及び委託業者において事前に伐採するなどの対応を行っています。

近年、台風などの影響により倒木が多く発生し、平成30年度は72本を伐採し、令和元年度では14本を伐採しています。



写真：強風により倒れた街路樹

(3) 病虫害対策

害虫の調査を市民からの要望により行い発生が確認された時点で、薬剤散布をせずに、害虫がついた枝を除去する対応を行っています。害虫駆除には、早期発見、早期対応が求められています。

近年では、コブシハバチなどの特定の樹木に大量発生する害虫がみられるようになりました。このような毎年発生が予想される害虫に対しては、巡回を強化して早期に対応するようにしています。



写真：コブシハバチ
(出典：立川いきものデータベース)

（４）維持管理費

街路樹の維持管理費は、平成 22 年度から平成 28 年度までは 5 千万円前後でしたが、平成 29 年度以降は 7 千万円を超える執行額でした。

街路樹の維持管理費は、各年度の剪定本数及び執行額に差はありますが、過去 10 年間では、維持管理費の推移は概ね増加傾向にあります。

今後、街路樹がさらに老齢化、大径化していくことにより、維持管理にかかる費用はさらに増加していくことが予想され、限られた予算の中で効率的に維持管理を考えていかなければなりません。

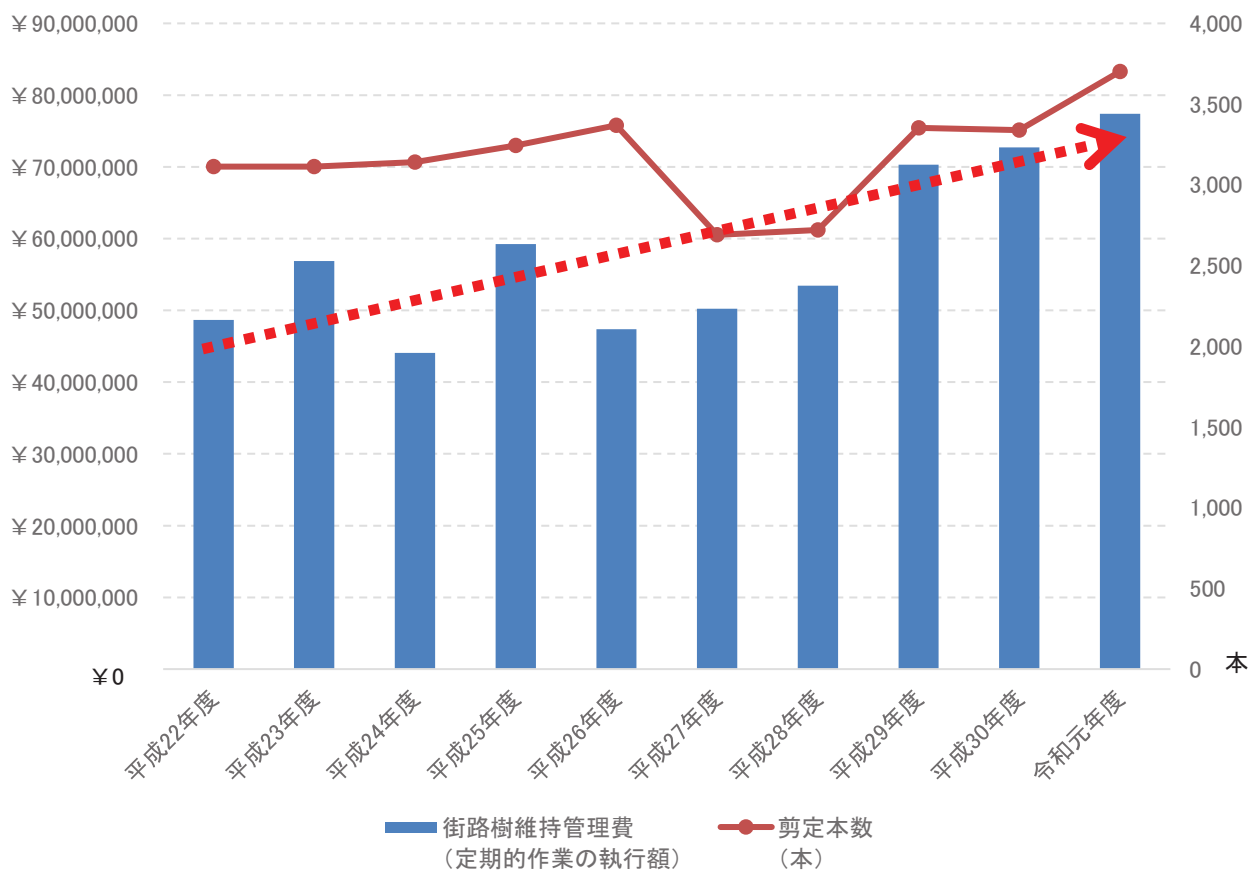


図 1-7：維持管理費とせん定本数

2 市民の関わり方

(1) 市民からの要望

街路樹の維持管理において、市民からは、落ち葉の清掃や、民家に張り出した支障木枝の除去など様々な要望が寄せられています。

また、せん定時期についても、市民から早急に切ってほしいとの要望もあり、安全面から台風の被害が起きる前の夏期を中心にせん定を行っています。

しかし、落葉前に実施してしまうと真夏の日差し除けがなくなるとの意見を受けることがあります。

(2) 市民との連携による維持管理

本市では、快適で美しい道路環境づくりを進める取組として、「立川市ロードサポーター事業」があり、地域にお住まいの方や企業などのボランティアグループと市の協働により道路の美化活動を行っています。

「立川市ロードサポーター事業」は、5名以上で構成された団体が、本市管理道路の一定区間の清掃美化活動を行う事業です。活動補助として、ボランティア保険の加入、ほうきなど清掃用具、ベストの貸与、ゴミ袋など消耗品の支給をし、ゴミ拾い、街路樹の落ち葉清掃、植樹柵の除草、草刈りなどの美化活動に参加して頂いています。立川市ロードサポーター事業の登録団体数は14団体、参加していただいている方は、546名（令和2年3月現在）になります。

この事業は地域にお住まいの方や利用者の方々が自ら参加することにより、地域環境へ関心を持っていただき、さらには、コミュニティーの形成にも寄与しています。



写真：「立川市ロードサポーター事業」
（都営松中団地グループ活動状況）